

情報公開文書

研究課題名	IgG4 関連疾患の臨床フェノタイプの変化に関する多施設共同後方視的臨床研究
研究体制	<p>□長野赤十字病院が責任研究機関となる</p> <p>■他施設が責任研究機関となる共同研究</p> <p>(責任研究機関:長岡赤十字病院)</p>
研究責任者	<p>責任研究機関 所属 <u>リウマチ膠原病内科</u> 氏名 <u>佐伯 敬子</u></p> <p>当院 所属 <u>膠原病リウマチ内科</u> 氏名 <u>石井 亘</u></p>
研究期間	(西暦) 承認日 ~ 2027年3月
研究の概要・背景	<p>IgG4 関連疾患とは 21 世紀に入りその存在が明らかになってきた疾患です。多くは血液検査で IgG4 という免疫グロブリン値が上昇し、傷害される臓器の組織中に多数のリンパ球と IgG4 陽性形質細胞の浸潤と線維化を認め、それらの組織の腫大、肥厚、さらに機能低下などを認める原因不明の全身疾患です。病変は全身のどの臓器にもおこりますが、脾臓（自己免疫性脾炎とよばれています）、唾液腺、涙腺、胆管、腎臓、肺、後腹膜、動脈周囲などに好発し、多くは発見時に多臓器に病変を認めますが、単一病変の事もあります。またこれらの病変は同時に起こるだけでなく時間を違えて別の臓器におきてくることがあります、その実態は不明です。</p> <p>一方、IgG4 関連疾患はメインで傷害される臓器の種類により、①脾臓、胆管系主体（自己免疫性脾炎など）、②後腹膜/血管周囲主体（後腹膜線維症など）、③頭頸部主体（涙腺・唾液腺炎のみ、など）、④全身型、にグループ分けされ、グループごとに年齢、性別、血液検査値などの特徴が異なることが知られています。しかし経過中に診断時とは別のグループに移っていく方の頻度、その特徴に関する検討はなされていません。</p>
試料・情報の利用目的・方法	本研究は IgG4 関連疾患の臨床病型が変化する頻度、変化する場合の特徴を検討することを目的とした、多施設での共同研究です。診断時の年齢、性別、罹患臓器、治療、経過中罹患臓器の変化などについて過去の診療録より情報を取得します。
研究対象者	<p>2004 年 1 月から 2025 年 6 月までに当院で IgG4 関連疾患と診断され、1 年以上経過観察された患者様が対象となります。</p> <p>※当研究に自分の情報を使用してほしくない場合は下記のお問い合わせ先までお申し出ください。</p>
データ利用のお願いと申し出について	<p>これらの臨床データは通常の診療で過去に記録されたもので、患者さんに新たな負担はありません。また、個人を特定できるような状態でデータを使用することはありません。本研究の目的と、臨床データ利用に関するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。</p> <p>なお、本研究に関するさらなる説明をご希望の方、また、本研究において臨床データの利用を希望されない方は下記問い合わせ窓口にご連絡ください。研究不参加を申し出られたとしても、患者さんが不利益を受けることは一切ありません。</p>

お問い合わせ先	<p>〒380-8582 長野県長野市若里五丁目22番1号 長野赤十字病院 所属 <u>膠原病リウマチ内科</u> 氏名 <u>石井 亘</u> TEL : 026-226-4131 (代表) FAX : 026-228-8439</p>
---------	---